

交流型賃貸シリーズ51棟目

朝日新聞社の元研修所をリノベ

コミュニケーション型賃貸住宅「ソーシャルアパートメント」を全国に展開するグローバルエージェンツ（東京都渋谷区）は2021年12月1日、シリーズ51棟目となる「ネイバース東中野」をオープンした。オープン前に全27室中26室に申し込みが入り、同月12日には満室となった。

同物件は、朝日新聞社（東京都中央区）の元研修所をリノベーションしたものの、築54年4階建て

グローバルエージェンツ

の入居に拒否感がある人が74・2%、入居を拒否している人が2・8%だった。FRIENDLY

DOOR事業責任者の龔軼群（キョウ・イクン）氏は「住宅弱者が不当な扱いを受けることなく、

FRIENDLY DOORを必要としない業界に変わればうれしい」と語る。

RC造。全27室で、家賃は6万〜8万3000円。場所は、4駅・4路線が乗り入れるエリアで、最も近い駅は西武新宿線「新井薬師」駅から徒歩8分となる。事業主は朝日建物管理（大阪市）で、事業企画はリノベ（東京都港区）、運営はグローバルエージェンツが担当する。

物件の特徴は、シリーズの中でも小規模であることを生かしたアットホームな雰囲気の出だ。グローバルエージェンツのコミュニケーションデザイン部吉田主恵氏は「広いスペースの確保ができなかった共有部は、ラウンジスペースをガラスで仕切るなど、空間全体で人の気配を感じられる雰囲気を意識した。大型の物件よりも心地よい規模感を支持する女性の入居希望が多い印象」と話す。

入居者属性は、シリーズ物件のファンが大きな割合を占め、オープン前にほぼ満室という結果に至った。男女比は、女性が66%、男性が33%。平均年齢は28歳で、シリーズ物件全体の平均30・6歳より2歳若い。

今回オープンした物件が立地する中野区は、新たに進出したエリアだ。今後も、東京都の西部エリアへの展開を予定しているとする。



◀ネイバース東中野の共有部